

キヤノンマーケティングジャパン株式会社 ランチョンセミナー 〈超高感度・超高視野・超低ノイズカメラを用いたバイオイメージング〉

日時: 2016年 11月26日 (土) 11:45~12:35
場所: A会場 (つくば国際会議場 中ホール200)



■ 超高感度カメラ キヤノン ME20F-SH 紹介 キヤノンマーケティングジャパン株式会社

■ 超高感度・超高視野・超低ノイズカメラを用いたバイオイメージング 永井 健治 先生 (大阪大学 産業科学研究所 生体分子機能科学研究分野)

蛍光タンパク質や化学発光タンパク質で構築されたプローブを用いたバイオイメージングにより、細胞や組織、個体内で繰り広げられている様々な生命現象を可視化し、研究することが可能になっている。バイオイメージングは色々な機器を駆使して行われるが、被写体の像を取得するカメラは中でも要のユニットである。蛍光や化学発光などの暗い試料のイメージングではCMOSカメラやEMCCDカメラがよく使われるが、最近では、従来の科学計測用カメラメーカー以外から、独自の技術を生かしたCMOSカメラでバイオイメージング市場へ新規参入するケースが散見されるようになった。このようにバイオイメージング用カメラが多様化しつつあるものの、重要なスペックである感度、画素数、素子サイズ、フレームレート等がすべてベストであるカメラは存在しないため、イメージングの実施においては観察目的に即した特性のカメラを選択することが肝要である。本セミナーでは、キヤノン社製超高感度・超高視野・超低ノイズカメラのパフォーマンスについて紹介するとともに、我々の研究室で開発した蛍光タンパク質プローブや化学発光タンパク質プローブを用いたイメージングの実施例から、蛍光タンパク質標識生体分子や化学発光の高感度イメージング、そして細胞の高精細・広視野イメージングを取り上げ、観察対象の可視化に要求されるスペックを解説する。

ME20F-SH のお問い合わせは

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

イメージングソリューション営業部

〒108-8011 東京都港区港南 2-16-6 TEL03-3740-3304

※年未年始弊社休業日は休ませていただきます。